

声を上げて泣くことでしか、この感動は伝えられない!

最後に声を上げて泣いたのはいつですか? 随分、前ではありませんか? TVや新聞が毎日のように報じる世界中の悲しいニュースにどこか慣れてしまっていないですか?

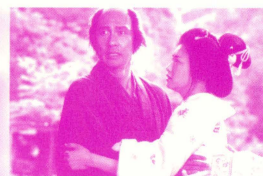
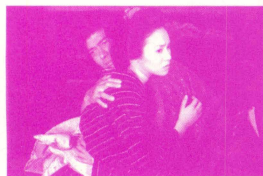
傷つかないために固く閉じた心を滂沱の涙で洗い流し、そして温めてくれる——そんな美しくかつ力強い映画が誕生した。

私たちはいったい、何のために生きているのだろうか? 『壬生義士伝』は、そんな問いかけに一点の曇りもない瞳で答えられる男の物語だ。彼が力いっぱい駆け抜けた短くも激しい一生は、21世紀に迷いながら生きる私たちに、なくしたものは何かを教えてくれるはずだ。

その男、名は吉村貫一郎。幕末の混乱期に、尊皇攘夷の名のもと、京都市中守護の名目で結成された新選組の隊士である。幕府の力が弱まるにつれ、明日をも知れない運命に翻弄される隊士たちの中で、貫一郎はただ一人、異彩を放っていた。名誉を重んじ、死を恐れない武士の世界において、彼は生き残りたいと熱望し、金銭を得るために戦った。全ては故郷の妻と子供を守り、もう一度彼らをその腕で抱きしめるためだった。

大義名分、権力、名誉。そんなものはどうでもよかった。愚直なまでに「愛する者のために生きる」。家族だけではない。友、仲間、心を通わせた相手のために貫一郎は生き抜いた。やがて「守銭奴」と彼をさげすんでいた隊士も気づき始める。この男の「義」は、「人としての愛」なのだ。

波瀾の運命をたどりながらも、この見事なまでに純粋な生き方と出会う時、私たちはただ声を上げて、まさに慟哭することでは、この感動を表現することはできない。



大ベストセラーが豪華キャストとスタッフで「魂のエンターテインメント」に!

原作は、“稀代のストーリーテラー”“物語の名手”と呼ばれる「鉄道員(ぼっぽや)」の直木賞作家、浅田次郎の同名小説。新選組の中では全く無名だった男を主人公にするという大胆な発想と、どこか現代とも重なる幕末を必死で生き抜く男の姿が感動を呼び、単行本・文庫と合わせて80万部を突破する大ベストセラーとなり、今なお幅広い読者層に支持されている。

すでに多くの人々に愛されているこの物語の映画化に挑戦したのは、エンターテインメントの旗手、『陰陽師』の滝田洋二郎監督。長大な原作の本質はそのままに、完璧に再構築した中島丈博の脚本を得て、真正面から男同士の友情と絆、家族愛を描ききり、血の通った魂のエンターテインメントを完成させた。また、映画音楽の巨匠、『千と千尋の神隠し』の久石譲による情感あふれる旋律が胸をゆさぶる。

キャストもこれ以上ないほど豪華な顔ぶれがそろった。主人公の吉村貫一郎には中井貴一。間違いなくこれが彼の代表作となる渾身の演技だ。最初は貫一郎の純朴さを憎むが、やがて惹かれていく斎藤一に佐藤浩市。日本映画界を代表する二人のこれが映画初競演。貫一郎の幼なじみで南部藩の組頭大野次郎右衛門に三宅裕司。また、斎藤に愛される女、ぬいを中谷美紀が、貫一郎の妻しづを夏川結衣が演じ、物語に一層の深みと温かみを与えている。

監督:滝田洋二郎 原作:浅田次郎『壬生義士伝』(文春文庫) 脚本:中島丈博 音楽:久石譲

出演:中井貴一 三宅裕司 夏川結衣 村田雄浩 中谷美紀 佐藤浩市

製作:松竹/テレビ東京・テレビ大阪/電通/衛星劇場/カルチュア・パブリッシャーズ/IBC岩手放送 配給:松竹



www.mibugishi.jp

1月18日(土)ロードショー! 毎日サービスデー! 1000円【当日料金一般1800円の処】

前売券発売中【一部劇場を除く】

丸の内プラザール 03(3214)3366	新宿ピカデリー 03(3352)1771	渋谷松竹セントラル 03(3770)1990	池袋シネマ・ロサ 03(3986)3713	上野セントラル 03(3832)0057	品川プリンスシネマ 03(5421)1113
横浜ニューテアトル 045(261)2995	マイカル松竹本牧 045(625)4766	川崎チネチッタ 044(223)3190	船橋ららぽーと松竹 047(431)0088	柏松竹 04(7163)0760	他 全国松竹系にて